

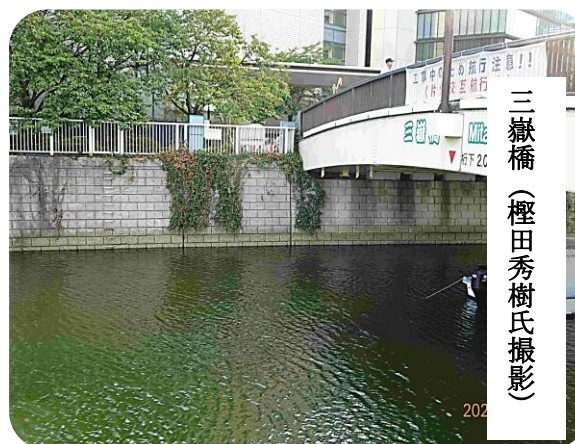
ここが問題！リニア新幹線

第112号 発行 2024年9月10日

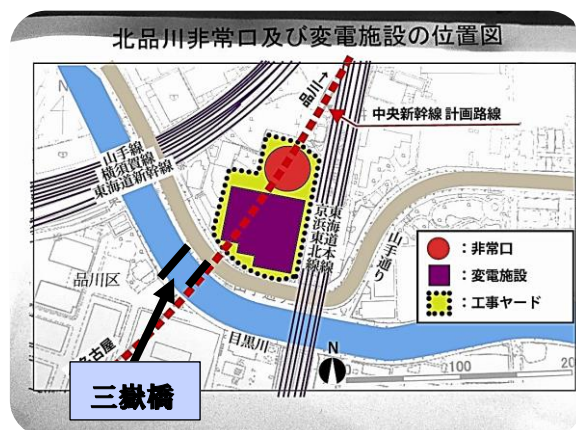
リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会 linear-tokyokanagawa @googlegroups.com

目黒川に「酸欠」？気泡発生、リニア大深度工事原因か JR東海は成分分析を行い、工事との関連を究明せよ

8月中旬、品川区の住民から、同区内の目黒川の三嶽橋（みたけばし）付近で「川面に水面に気泡が湧き出ているのを熊谷組の作業員が確認している。8月初めからその監視作業が行われている」との通報が東京・神奈川連絡会に寄せられました。現場は北品川非常口からのリニアルート上にあり、2018年5～7月の東京外環道大深度トンネル工事で、東世田谷区野川に酸欠気泡が発生したのと同様の現象と見られています。



榎田秀樹氏が現場に赴き動画を撮影



気泡発生の事態にジャーナリスト榎田秀樹氏が現場に直行し、写真と動画の撮影を行いました。

榎田氏は、「野川のようなブクブクというようなジェットバスではなく、小さなあぶくが出ている。リニア北品川非常口から行われている調査掘進の先端（155m、目黒川を過ぎた地点）に当たる場所なので、調査掘進による影響の疑いが強い」と報告しています。動画を見ますと、気泡は小さいのですが川底の泥が泡となっているような色ではなく、透明な水玉となって湧き出していると見ることができます。外環道の野川の気

泡発生について住民団体が調査した結果、気泡の酸素濃度は1.5～6.4%であり、吸い続けられれば重大な事故になるという酸欠気泡でした。この原因は大深度における気泡シールド工事であったことが明らかになっています。JR北品川工区では東海は工事を続行し現在168mまで掘削。

住民には一切知らされず、東京都や品川区からも広報無し。国交省は？

JR東海や工事を請け負っている熊谷組JVは目黒川の気泡発生の事態を重く見て、気泡の成分を直ちに分析し住民にその内容を報告すべきであり、連絡を受けたとされる国交省、東京都や品川区も実態調査を命じるべきです。北品川工区における調査掘進の進捗についてJR東海は8月23日に調査掘進の進捗状況を更新しましたが、気泡発生については一切触れられていません。

8月28日、この事態について国交省の説明を聞くレクチャーが参議院議員会館で行われました。この席で、「JR東海は水質調査で品川区と協議中だが、気泡の分析調査はしないと聞いている」と無責任な姿勢を示しました。JR東海任せにしていれば地表に重大な影響が出るでしょう。

住宅地の下を掘れば住民の生活と環境に大きな影響を与える 東京外環道の大深度トンネル工事は2年間ストップ、地盤改良工事で閑 静だった住宅地は「まち壊し」状態



陥没現場の上空写真（東京新聞）



2020年10月18日、東京・調布市の住宅街で道路陥没と大規模空洞発生。その後30戸が半ば強制的に移転、住宅は解体された。裁判所は外環道工事の部分停止の命令出した



2022年12月地盤改良工事（幅16m、長さ200m）開始、今年終了の予定だが・・・

現場付近の入間川に気泡発生、事業者調査

大深度工事で気泡が地上まで押し出される事態は2018年5月から7月に東京・世田谷区野川に酸欠気泡が発生し、原因は外環道大深度工事であることがわかりました。気泡シールド工法で工事を進めれば、空気が押し上げられることは明かです。

そして、外環道の地盤改良工事が原因で、昨年11月に、現場近くの入間川に気泡が湧出しているのがわかり、住民もその状況を確認しました。（左下写真は住民撮影）



この気泡発生については、事業主のNEXCO 東日本が、①変状調査、②気体を採取し酸素濃度と発生量を調査、③水素イオン濃度や六価クロム濃度などの水質調査を実施したものとみられます。これに対し今回の目黒川の気泡発生について、JR東海は水質調査を行うことしか考えていないようです。目黒川では今年に入って3回の魚の大量死が起きましたが、都市河川は水質変化しやすいので、水質検査だけでは発生のメカニズム

は明らかにされません。JR東海には「気泡は大した影響は無い。シールドマシンが進めば気泡は発生しない」として工事は続行という無責任な姿勢がうかがえます。国交省も東京都・品川区には事態を安易に考えないで、詳細な調査を指導するなど厳しい姿勢が求められます。

梶ヶ谷・東百合丘の住宅地の下に 大深度地下トンネル掘ってはならない

リニアの首都圏第一大深度トンネルですが調査掘進という名の初期掘進では、北品川工事で工法の誤りやシールドマシンの損傷で三度にわたってシールドマシンが止まり、掘進開始からわずかしか進んでいません。川崎ではこれから住宅地の下を掘るのは危険です。



リニアトンネル、梶ヶ谷から 399m、東百合ヶ丘 133m

各地でリニア工事関係すると見られるトンネル湧水等が発生

調査不足や安全管理のＪＲ東海のずさんな計画にほころび拡大

岐阜県大湫町ではリニアトンネル工事で井戸水や農業用ため池が枯れる



干上がったため池

岐阜県瑞浪市大湫町周辺で２月以降、井戸や農業用ため池の水位が低下し、５月までに１４か所の井戸とため池の水が枯れてしまったことがわかりました。地下１５２ｍで行われていたリニアトンネルの工事で断層を掘ってしまい、地下水がトンネル内などに流入したことが原因。ＪＲ東海はこの事態を２月に把握していながら県などに報告せず、工事を進めていました。住民らの強い反対で５月

末ようやく工事は中断されました。

大井川源流の燕沢のリニア残土置き直下に断層の存在濃厚、これもＪＲ東海は報告せず

リニア南アルプストンネルの工事残土３６０万立方メートルを大井川源流部の燕沢（つばくろさわ）の河川敷きに積み上げる計画があり、県や住民、自然愛好家が強く反対しています。高さ６０メートル、長さ６００メートルの残土の山が壊れたら大井川の流れに重大な影響を与えます。そして、この「ツバクロ発生土置き場」の直下に断層が走っている可能性があることが、９月６日の静岡県環境保全会議の専門部会でＪＲ東海から報告されました。ＪＲ東海は情報提供が遅れたことについて、「断層の有無が盛り土の計画・設計に影響はしないと考え、議論の訴状に挙げなかった」と釈明しました。自分勝手な解釈で報告もせず議論もさせないというＪＲ東海の姿勢がここでも明らかになりました。



大井川燕沢の清流

７月１９日、リニア残土の捨て場とみられていた相模原の「農場計画」の廃止決まる



津久井農場計画完成図

(2018年)

神奈川県相模原市緑区長竹地区の山林に高さ６０メートルの土砂を階段上に積み上げ牧場にし、２５０頭の牛を飼育するという「（仮）津久井農場計画」（事業主は県内のＳファーム）は、リニア工事を受注しているゼネコンのフジタが取り仕切っていたことから、住民らは県内のリニア残土１００万立方メートルの処理場にする偽りの計画であると考え、当初から地元の住民や相模原連絡会、東京・神奈川連絡会は計画の撤回を求めてきました。市の環境影響審議会でもゴーサインを出していましたが、このほど相模原市長にＳファームから事業廃止の届け出があり、市長がこれを認めました。自らは表に出ないでリニア工事請負業者を使って計画を進めたり、住民の説得対策に当らせたりしているのもＪＲ東海の常套手段ですが、今回は住民の確固な反対意志と粘り強い活動より計画は失敗に終わりました。

神奈川県駅工事現場で残土の山が崩れる。明らかにＪＲ東海の安全管理に不備

８月２４日午後１０時ごろ、相模原市緑区橋本２丁目のリニア神奈川県駅新設工事現場で、リニア残土の土のうの山が崩れ、高さ１０メートル、幅２０メートルの仮囲いを倒し道路に流出しました。日中の人出が多い時間に崩れたら大事故に繋がります。神奈川県知事は駅の工事現場をコンサート会場にしたらと提案していますが、住民にとってはもってのほかの考えです。

リニア大深度と関連工事の中止を求める首都圏ネット結成、6 団体が参加

7月6日、川崎で結成記念集会開催、120名が参加、集会宣言を採択



リニア大深度工事や外環ネットトンネル工事、相模原市のリニア新駅建設反対などの中止を求めて活動している東京・神奈川の6つの市民団体、住民団体が結集した「リニア大深度と関連工事の中止を求める首都圏ネット」が7月6日午後、川崎市中原区のエポックなかはらで結成記念集会を開きました。猛暑の中、120名の市民が集まりました。

トンネル工事技術者が「乗るのは怖い、掘るのも怖いリニア」で講演

第1部では数々の鉄道トンネル工事にたずさわりの大深度工事の危険性を指摘しているトンネル施工技術者・大塚正幸さんが「乗るのは怖い、掘るのも怖いリニア」と題して講演しました。

大塚氏は南アルプストンネルの工事について、ウラン鉱石の排出やガス流失などのリスクがあり、複雑な地層を掘ることにより地下水が失われる可能性が強いと指摘し、山腹の崩壊、残土置き場の崩壊などの危険もあるとの見通しを述べました。都市部のリニア大深度トンネル工事でも、「地盤陥没や強い地震による施設の損傷で大事故が起きる。通常の新幹線は100以上の長い技術進化に支えられている。リニア技術は未完であり、危険な鉄道である」と警告しました。

第2部は参加団体によるシンポジウム、JR東海やNEXCO東日本への不信

首都圏ネットに結集したグループは以下の6団体です。リニアから住環境を守る田園調布住民の会から、JR東海にリニア大深度トンネルの中止を求める訴訟を起こしているグループと、国交大臣の大深度地下使用認可を取り消すよう求める訴訟を起こしたグループの二つと、リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会、リニア中央新幹線を考える町田の会、リニア新幹線を考える相模原連絡会、それに外環ネット訴訟を支える会・外環ネットです。

第2部のシンポジウムでは6団体の関係者が活動状況を報告しましたが、「JR東海は住民に対し詳細な情報を提供していない」、「外環道工事に反対する住民に対し、ゼネコン業者は監視・盗撮などのスパイ活動を集団的に行っており、NEXCO東日本が指示しているのではないか」という事業者不信の意見が目立ちました。各団体は今後も結束して活動することで一致しました。

「速いこと、大きいことはいいこと、経済的利益や便利さを追求し、自然環境や人権を犠牲にするリニアは過去の価値観においてのみ存在する遺物である」～集会宣言を採択

**ここが問題！リニア新幹線
NO. 112**
**発行：リニア新幹線を考える
東京・神奈川連絡会**
天野捷一(中原・高津)
090-3910-8173
山本太三雄(宮前)
090-8775-1879
矢沢美也(麻生・多摩)
090-6108-6568

最後にリニアは歴史的ない物であると述べ、憲法に保障された所有権や人権を無視して進めようとしている大深度トンネル工事の中止を求めるという趣旨の集会宣言を参加者全員の賛成で採択し、集会宣言は後日、各事業者、国交大臣、各関係自治体首長に送付されました。

**ストップ・リニア！訴訟控訴審第3回口頭弁論は
10月10日(木)午前11時東京高裁
集合は午前10時15分東京地裁前**